

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101581		
法人名	株式会社 やつかの郷		
事業所名	グループホーム やつかの郷本館 (東ユニット)		
所在地	松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	令和2年3月12日	評価結果市町村受理日	令和2年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和2年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設前に中海を望み、春には海岸道路に千本桜が咲く恵まれた環境にあります。同町内の方や、島根半島出身の方が多く利用しておられ、今までの静かな住み慣れた生活のように、穏やかに過ごしていただいております。
 中庭の庭園を眺め、青空を見上げひなたぼっこをしながら、馴染みの利用者同士でおしゃべりをしてゆったりと時間が過ぎているようです。
 地元で採れた野菜や、朝どれの魚を使った献立を栄養士が考え、毎食施設内で調理をしています。食事の準備や片付けなど、利用者と一緒に出来ることをしてもらい、食べることの楽しみや、役割を持った生活をしてもらえるよう支援しています。干し大根などの保存食も、利用者と一緒に作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に同グループのデイサービスや有料老人ホーム、新館としてスタートしたもう一つのグループホームがある。広い敷地に自然豊かな花木、広々とした海の風景が広がり、施設の中央にはイベント用のホールを有するなど施設内外に十分なスペースが確保されている。ここ数年間は職員不足が続き負担が増したことでストレスを感じる職員もあるが、その間でも研修を行い看取りに取り組んでいる。調理専門職員を雇用したり、米栽培の委託等地産地消を推奨することで備蓄に繋げ、業務改善に結びつけると同時に、以前雪の影響を受けたことを教訓に、孤立した場所での災害時の避難への意識を高めている。今後に於いても雇用を安定させることに加え、同グループでの交流を深めるなど工夫することでケアの充実に繋げていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やユニットに掲示し、理念の意義を会議や施設内研修で議題にあげ意識統一に努めている。	開所当初に現場の職員で作成したものを継続している。毎年事業計画を作成し考え方を共有するようにしているが、職員体制が不十分なこともあり、新人研修等も計画的には行われていない。今後は指導者を固定するなど内容を見直して取り組む予定。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に畑の手伝い等のボランティアをしていただいたり、地域交流会等の行事を通じ交流している。地域の文化祭でPRの為にパネル展示も毎年行っている。	地元の保育園と交流したり、地域からは大正琴、踊り、コーラスなどのボランティア訪問を受けている。実習生や研修の受け入れにも協力する意向ではあるが、中心から距離があるためかここ数年申し込みがない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりに参加し、民生委員の方との交流や、施設紹介などを行い、地域の研修会に活用していただけるよう働きかけた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族関係者、ボランティア、地区長、駐在の方、地域の薬局の薬剤師等の知見者、行政関係者の参加で開催し、行事や研修等の活動報告や勉強会、今後の予定を伝え意見交換に繋げている。	家族関係者の参加が多くなるように、夏祭りに合わせて開催しているが、地域関係者の方々とは日程が合わず少ない人数ではあるが、参加を得ている。利用者状況や行事、研修等の報告を行い、意見交換に繋げている。	家族関係者、地域代表等できるだけ多くの参加で会議が開催できるよう検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で意見交換を行ったり、生活保護担当者には生活の状況を伝えたりして日ごろから協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議には毎回参加があり助言を得ている。生活保護の担当課からは年1回の訪問があり日頃の情報交換も密に行っている。認定調査でも関わりがあり、良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設で身体拘束廃止に関する指針をもとに身体拘束廃止・虐待防止委員会を中心に、外部研修の参加や施設内研修を行い、拘束しないケアを実践している。出口の施錠はせず所在確認し一緒に歩くことで、対応している。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し拘束のないケアを目指している。現在センサーマットを利用している方があり見直しを検討中。日中は玄関の施錠は行わず、外に出られる場合は一緒に散歩するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や、施設内研修等で積極的に学ぶ機会を設けて、互いに注意しあえる関係づくりに努めている。研修担当は毎回変わるため、職員自身が考える機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括との連携で、弁護士に相談し、成年後見制度を活用したり、ご家族からの相談を司法書士へつなげた。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には本人家族に十分説明し理解いただき、同意を得てから手続きをすすめている。改定の場合は、運営推進会議で話し、また文書でも通知し、周知を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回施設の新聞を発行し、年に2回お便りを送り様子を伝えている。何かあれば家族に連絡をとり報告し、面会時に声を掛け意見を得るようにしている。会議や行事への参加時にも意見を聞くようにしている。	年3回の新聞とその間には利用者の普段の様子を伝える便りを担当から送っている。お盆や正月など家族が多く集まる時に合わせたり、はがきや手紙だったり担当がそれぞれ工夫をして作成している。家族が集まる機会として夏祭りを開催している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と個人的に話をする機会を持つようにしているが、日ごろは会議等の時間でも職員が気軽に意見が言えるような雰囲気づくりを心掛けている。休みの希望はできるだけ聞き、調整し対応するようにしている。	今年度は会長が変わったため個人的に話をする機会を持ち意見を聞いている。今までも必要性がある場合は個別に面談するようにしてきたが、今後は回数を増やしよりコミュニケーションを密にとるようにしたいと考えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の能力や経験を考慮し業務内容等配慮している。希望休を望む職員には考慮して勤務の調整を行っている。資格手当や役職手当をつけてモチベーションアップに繋げている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正規職員、パート職員にこだわらず外部研修や資格取得にむけての研修に積極的に参加している。毎月職員会議の後に施設内研修を行っている。外部講師を招き勉強会を行い、直接ケアについての質問もできた。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し他事業者との意見交換できる機会を作っている。職員は外部研修や交換実習を通じて意見交換を行っている。他事業所とは新聞を送り合い意見交換を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族も交え本人とかかわる時間を増やしてコミュニケーションを取りながら、心配事や不安がなくなるように要望を受け入れ、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いの場を設けてご家族の意見を聴き、要望に応えながら安心してご利用いただけるように努めている。ご利用者の家での様子や、昔の話を聞きながら不安や要望等を話しやすい雰囲気づくりを心掛けてい		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを受け止め、どのようなサービスが必要か見極め、当事業所に限らず他のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持っていただき、職員も教わりながら互いに信頼関係を築いている。手伝いをお願いしたり、工作や飾りつけで案を出してもらい、感謝を伝えている。同じ食事を食べて生活を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の近況報告や電話連絡、行事に誘い、施設での様子も見せていただいている。精神的に不安定になりやすい方には定期的に面会に来ていただくなど、家族と相談しながら、ともに本人を支える支援を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族写真やなじみのものを居室に置いたり、電話や手紙のやりとりや、近所の散髪屋さんでお茶しながらくつろぐことも続けている。以前の関係を続けることに加えてここでの新たな仲間づくりも支援している。	地元の理髪店には車で送り迎えをしたりスーパーに買い物に行く機会を作るようにしている。この地域出身の方は施設前の風景を懐かしく思う方が多いので、景色が良く見えるよう車を止めないようにするなど配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し会話の橋渡しをしたり、関わりを大切に声かけを行っている。食堂の席替えも様子を見ながら行っている。ユニット間での行き来もあり、孤立することのないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に訪問したり、必要な場合は相談に応じて助言等行い支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の訴えのあったことは記録するようにしている。主に居室担当が関わり意見を聞くようにしている。モニタリングも担当が行うことで評価しながら思いを把握するように努めている。	老健など施設から入る方が多く施設での情報は把握しやすいが、在宅からの場合は家族と別居や独居の場合などから様子が分かりにくいことも多い。入所後に話をする機会を多く取り思いを聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人等とのコミュニケーションを大切にして話をうかがい、生活歴やこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりとのかかわりを大切にして様子を知り、職員同士声を掛け合い、申し送りノート等活用し、職員間で情報共有し連携を取りながら、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回担当がモニタリングし、更新時などは担当者会議を行う。家族参加は難しいが事前に意見を聞き、主治医には受診時に意見を聞いている。看取りなど医療の関わりが多い場合は病院で実施している。	退院時には家族を含めた関係者で担当者会議を行っているが、普段は日程調整が難しく家族関係者の参加はあまり多くない。面会時や電話等で意見を聞き計画作成に繋げている。	本人、家族関係者等多くの方の参加で担当者会議が開催できるよう検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜間帯での一覧の申し送りノート活用しながら、ケアの実践や気づきを記入して職員間で情報共有し、ケアに活かせるよう詳細を生活記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が受診に付き添えない場合に受診介助を行ったり、地域の理髪店や美容院、買い物や外食等の外出支援を希望に応じて柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りでボランティアの方に店の手伝いをしていただいたり、行事では餅つきや地元のお菓子づくり講師をしていただくなど一緒に楽しむ機会があった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や緊急時にも対応可能な協力医を確保している。かかりつけ医を月1回のペースで職員が付き添い受診し、日ごろの様子を詳しく伝えることで指示を得るようにしている。	家族対応で今までのかかりつけ医を継続することも、協力医に変更することも可能で入所時に決定するようになっている。多くの方が休日や緊急時に対応可能な協力医への変更を希望される。歩行可能な方は職員付添で受診し、重度の方は往診対応。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師には出勤時以外も緊急時は24時間対応で随時電話で相談するほか、協力医の看護師等に指示を仰ぎ連携を取りながら受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、相談員と連携をとりながら、訪問した際には医師や看護師等からの状況把握に努めている。退院時のカンファレンスに出向いたり、サマリーや電話等で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時など、お元な段階でご家族の意向を確認するようにしている。終末期には、協力医の支援体制があり、対応が可能な場合に看取りを実施している。こちらでできることを十分に説明したうえでご家族に話し合いを重ね、意向を再度確認している。	重度に向けては話し合いの機会を持ち進めてきており、現在も看取り契約をしている方がいる。昨年1名の看取りを行っており、今後もここでの対応が可能な範囲で取り組む意向を持っている。急変事の対応について看護師より研修を受けるなど経験の浅い職員を含め意識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力を得て、救命講習を受講している。施設内研修を行うほか、ステーションにフローチャートや対応マニュアル等を張り周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループ全体で避難訓練を実施している。米の備蓄や毛布やカセットコンロ等の準備はしている。地域へは避難所として提供することも検討している。	平坦な地域で自然災害は少なめで、施設は地域から離れた場所にある為、留まる形の避難訓練を主に行っている。敷地内も広くグループ全体で協力体制もある為、合同での訓練で連携を深めている。水や米等備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地元からの入所者も多いため、守秘義務について会議等で取り上げて注意を促している。特に入浴や排泄介助時は配慮するようにしている。	年度始めに個人情報や守秘義務については話をしている。関西弁やこの地域独特の方言の使い方、利用者との関係を含めて、適切な接遇については会議の場で繰り返し取り上げるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の訴えや意向を会話の中から探り、自己決定できるような声掛けや支援を行っている。いくつか選択肢を例にあげて聞くように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重した声掛けを行い、食事やお茶の場所など本人の意向に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いを大切に衣類を選んでもらったり、買い物支援や近所の理髪店や美容院への外出支援、髭剃り、爪切り、化粧等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方と作っている野菜や、地元の魚を利用し3食作っている。大型冷蔵庫があり保存食作りもしている。利用者と下準備や盛り付けを一緒に行い、食べるのが意欲に繋がるようにかかわっている。	敷地が広く畑では野菜、田んぼでは米を栽培してもらい、海も近く新鮮な魚も手に入りやすいこともあり、地産地消にに取り組んでいる。調理の下準備や盛り付け、配膳、下膳などできる事は利用者と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を立てており、バランスや食事形態を考え、無理なく全量摂取できるようにしている。食事量、水分量をチェック表に記入し、好みの物を時間を決めず、その人に合わせてこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助により口腔ケアを行い、チェック表に記入している。一人ひとりに合わせた方法で口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者から訴えのある場合や排泄パターンを把握し声掛けするようにできるだけトイレで排泄できるように支援している。	多くの方は紙パンツにパット使用だが、布パンツの方もいる。オムツの方は定期交換。夜間はオムツでも日中は紙パンツで変えトイレ介助の場合や、個々に合わせた対応としている。コスト面や家族の負担軽減の為に一括購入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には牛乳等の水分やヨーグルト摂取、散歩等の運動を促しているが、排便間隔や便の状態など場合によっては医師に相談し処方された便秘薬で適宜コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けで意向を聞きながら、週2～3回の入浴回数を確保している。それ以外にも汚染時や希望に応じて、都度対応している。家庭浴槽のため重度な方はシャワー浴で対応している。	週2～3回入浴回数を確保しており、受診や行事等その日の予定に合わせて午前午後どちらでも対応できるようにしている。家庭浴槽の為重度の場合は対応しにくい、入浴用の椅子でシャワー浴をしたり清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や照明もその人に応じて調整しながら良眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がセットしているが、職員も一人ひとり既往歴の把握に努め、内服管理表をユニットで管理し、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時はチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割を持っていただき、職員も教わりながら、互いに信頼関係を築いている。役割を持ち、洗濯物干し、たたみ、食事の準備や後片付けを手伝ってもらえるような環境づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は年間計画で作成しており、職員を確保して実施している。日ごろは受診時に外出を兼ねて買い物に寄りたり、ドライブをしたりしている。施設前には景色を見ながらくつろげる場所があるため、気候が良くなると度々利用して楽しんでいる。	歩行可能な方は車で受診に出かけており、帰りにドライブや買い物に立ち寄るなど、定期の外出の機会になっている。施設の敷地が広く、景色がとてもいいこともあり、敷地内での日光浴や散歩を喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお小遣い程度のお金を所持しておられる方もいる。希望時には買物支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は、自分でかけられることもある。希望があれば職員が電話をかけて直接話をされたり、年賀状や手紙のやりとりも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールがあり共同の行事の場として利用。ソファに座り、大型のテレビを楽しめる。和風の小庭を囲むように廊下があり、外の景色も良く見え自然の中にいることを実感できる。共用の空間に季節を感じる飾りつけや植物、めだかの水槽等置く工夫をしている。	ユニットの中央には中庭があり回りを居室が囲んでいる。和を感じる趣のある中庭や施設回りも季節ごとに花が眺められる自然豊かな場所。玄関正面には広いホールがあり、合同での行事開催に使用中。明るく静かで移動にも十分な広さがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファやテーブル、テレビを設置し、利用者の方が自由に使用できるようにして、思い思いに過ごしている。廊下に椅子を置き、ひなたぼっこをしながら、気の合う利用者同士で話ができる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの持ち物の持ち込みを積極的にすすめており、家具等を動きやすいように配置しくつろげるように配慮している。トイレの有無で居室が選べるようになっている。	各居室に大きい物入が備え付けてあり収納は十分にできている。植物好きの方は大きめの鉢を置いたり、写真を飾ったりしてくつろげるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、安全に移動できるように手すりも設置されている。ベッドから転落の可能性のある方には、軟らかいマットを敷き、怪我予防をしている。		